

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査



かけがわの子供たち



掛川市教育委員会

掛川市では、『教育大綱かけがわ』の中で、子供たちの目指す姿の一つを「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」とし、体力・たくましさの育成と健康教育に重点を置いています。

本年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、掛川市の集計結果をお知らせします。
 全国平均・県平均を100として、指標値により示しました。



実技に関する調査結果



【小学校5年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	99	100	95	102	104	101	101	105	101
県比較	100	103	100	102	102	102	101	110	103

【小学校5年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	97	96	102	103	100	101	109	101
県比較	98	100	100	102	99	100	100	108	101

【中学校2年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	102	107	104	102	101	101	102	103
県比較	99	103	106	102	100	100	100	102	102

【中学校2年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	101	106	105	105	103	102	104	107	106
県比較	101	106	103	103	101	101	101	103	103

※持久走と50m走については、タイムの速い方がよい結果であるため、市平均値を100として計算しました。

調査結果全体から見えてきたこと

- 反復横跳び、ボール投げにおいて、小5・中2の男女すべてで全国及び県の平均を上回っており、掛川市の子供たちの敏捷性、投球能力は全体的に見て高い。
- 中2の女子は、全国及び県の平均をすべて上回っており、中2の男子においても握力以外は、全国の平均を上回っている。掛川市の子供たちは、中2の男女において、体力や運動能力が全体的に見て高い。
- 児童・生徒に対する質問紙調査では、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好き、やや好き」、「放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることがある、時々ある」と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女において全国及び県を上回っている。掛川市の子供たちは、運動やスポーツに関わる意識が高いと考えられる。
- 「体育（保健体育）の授業が楽しい・やや楽しい」と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女すべてで全国及び県を上回っている。掛川市では、子供たちにとって体育（保健体育）の授業が充実したものになっている。また中2の男女において、「保健体育の授業で、ICTを使った学習で「できたり、わかったり」することが「いつもある、だいたいある」と答えた生徒の割合が全国及び県を上回っており、保健体育の授業において、一人一台端末やICT機器が効果的に活用されていることが伺える。
- 「睡眠を8時間以上とっている」と答えた児童・生徒の割合は、小5、中2の男女すべてにおいて全国及び県を上回っている。「朝食を毎日食べる」と答えた児童・生徒の割合は、小5女子、中2の男女において全国及び県を上回っている。小5の男子においても全国及び県の平均と大きな差は見られなかった。掛川市の子供たちは、全体的に見て規則正しい生活習慣ができていると考えられる。
- △小5の女子は、「体力合計点」においては全国及び県の平均値を超えているものの、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」の3種目において全国の平均値より低い。
- △「握力」において、小5の男女、中2の男子が全国の平均値に届かなかった。

体力の高い子 ポイント6

「実技に関する調査」と「質問紙調査」の相関関係を分析すると、次のような子供の体力合計点が高い傾向にある。

- ① 「運動が好き。」、「運動をするのは大切である。」と思っている。
- ② 体育・保健体育の授業を除き、1週間あたりの運動時間が420分以上である。
- ③ 中学校に進んだら（中学校を卒業した後）、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思っている。
- ④ 体育の授業を楽しんだり、進んで学習に参加したりしている。
- ⑤ 体育の授業で、「できたり、わかったり」する実感をもつために、目標を意識したり、友達と助け合ったり、教え合ったりしている。
- ⑥ 体育の授業で、「できたり、わかったり」する実感をもつために、その授業で学習したことを振り返っている。



今後に向けて

小中学校の体育の授業においては、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することを目指し、児童生徒が楽しさや喜びを味わえるような工夫をした運動を適切に行うことにより、その結果として児童生徒の体力の向上を図ることができるようしていきます。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手掛かりに遊びを通して育まれた幼児期の育ちと学校教育が連携していき、学校だけでなく家庭を巻き込みながら運動（体を動かす遊びを含む）好きの子供を育てるよう取り組んでいきます。